

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	15-120	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Early Substance Use and Subsequent DUI in Adolescents. 若年からの薬物乱用と青年期の飲酒運転		
執筆者		
Ewing BA, Tucker JS, Miles JN, Shih RA, Kulesza M, Pedersen ER, D'Amico EJ.		
掲載誌		
Pediatrics. 2015 Nov;136(5):868-75. doi: 10.1542/peds.2015-1143.		
キーワード		PMID
薬物乱用、飲酒運転、アルコール・マリファナ依存		26438702
要 旨		
<p>目的：飲酒運転 (Driving under the influence, DUI)や飲酒運転の同乗 (Riding with a drinking driver, RWDD) に対する危険因子はほとんど知られていない。本研究では、高校生において、アルコールやマリファナ (AM)の使用と依存、あるいは同僚や家族の影響因子が、DUI や RWDD に及ぼす影響を検討した。</p> <p>方法：南カルフォルニアの 16 のミドルスクールの 1189 人を対象とし、2 年ごとに 3 回調査を行った。16 歳での DUI と RWDD に対する、12 歳・14 歳時点での AM 使用・AM 依存と同僚や家族の影響について多変量モデルを用い検討した。</p> <p>結果：12 歳時点で、マリファナ依存が強いほど (オッズ比 1.63, 95%信頼区間:1.20-2.20) またマリファナの誘惑に耐えることができるほど (オッズ比 1.89, 95%信頼区間:1.22-2.92)、4 年後 (16 歳)の DUI/RWDD のリスクが有意に高かった。一方、14 歳時点で、過去のアルコール使用歴があるほど (オッズ比 2.10, 95%信頼区間:1.07-4.11)またマリファナ依存が強いほど (オッズ比 1.67, 95%信頼区間:1.31-2.13)、そして同僚の AM 使用の影響 (アルコール:オッズ比 1.01, 95%信頼区間:1.00-1.02、マリファナ:オッズ比 2.41, 95%信頼区間:1.28-4.53)また家族のマリファナ使用(オッズ比 1.54, 95%信頼区間:1.12-2.11)が 16 歳での DUI/RWDD の有意なリスク因子であった。</p> <p>結論：高校生における DUI や RWDD リスクを回避するために様々な段階で対応する必要があることが示唆された。いくつかの州での最近の法改正を考慮して、DUI/RWDD におけるアルコールとマリファナの影響の違いに着目した研究が必要であると考えられる。</p>		